

議事要旨(5)概念フレームワークについて

前回の委員会（第 114 回）に引き続き、豊田統括研究員より、「財務会計の概念フレームワーク」の検討状況について説明された。第 9 回基本概念専門委員会では、これまで十分に審議されていなかった前文及び各章の序文について重点的に審議がなされており、今回は、第 9 回基本概念専門委員会後の文案の変更点が説明された。変更点は主として、用語の使い方や表現についての修正である。

また、概念フレームワークの公開草案公表後、2 ヶ月程度のコメント募集期間を設け、その期間の中で公聴の場を設ける予定である旨が報告された。

以上の説明と審議資料の文案に対し、委員等から文案の内容等についての確認がなされ、事務局側から回答された。

続いて、今後の本プロジェクトの進め方について審議がなされた。

- ・ 委員等より、IASB/FASB が概念フレームワークを検討する共同プロジェクトを進めており、当委員会でもこのプロジェクトの進捗と合わせて審議し、相互に意見を交換すべきであるという意見が出された。
- ・ また、オブザーバーから、IFRS との同等性評価の結果によって重要な影響を受ける市場関係者との間で話し合いを続けていくべきであるという意見が出された。
- ・ この点について、委員等より、進行中の会計基準のコンバージェンスと IFRS との同等性評価は全く別であり、分けて考える必要があるとの意見が出された。

審議の結果、概念フレームワークの公表によって、重要な影響を受ける可能性のある市場関係者の理解とサポートを得ることは重要であることが確認され、11 月 7 日に予定されている第 116 回企業会計基準委員会での公開草案の公表議決に向けて、関係者と意見交換をしていくこととされた。

以 上